

無痛分娩をお考えの方へ



医療法人医誠会

医誠会国際総合病院 産科

無痛分娩とは？

出産に伴う子宮の収縮（陣痛）や産道の広がりによる痛みは、背中の脊髄という神経を通して脳に伝えられます。無痛分娩とは、脊髄近くに麻酔薬を少量ずつ注入することで出産の痛みを和らげる方法です。

無痛分娩の対象となる妊婦さん

- 経産婦さん
- 初産婦さんの一部

詳細は産科外来へお問い合わせください



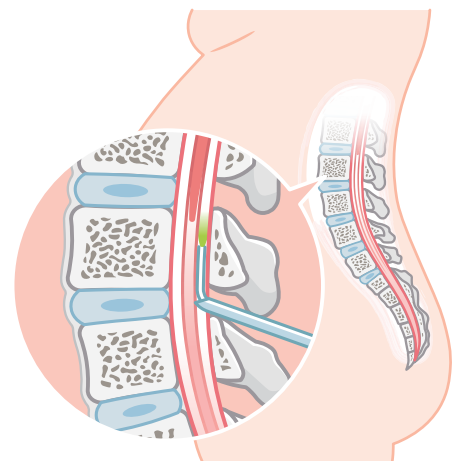
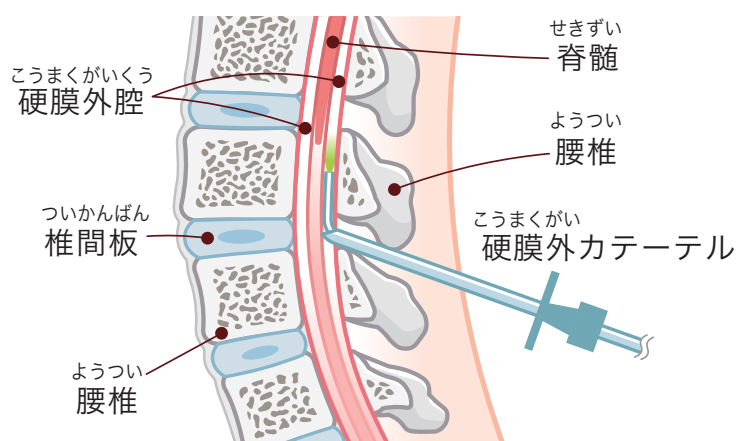
無痛分娩の方法

当院では、硬膜外麻酔を用いた無痛分娩を行っています。

この方法は、背骨の中にある「硬膜外腔」と呼ばれる空間に細いチューブ（硬膜外カテーテル）を入れ、そこから局所麻酔薬を注入して痛みを和らげるものです。

無痛分娩を実施するため、当院ではあらかじめ入院していただき、出産日を決めたうえでの計画分娩を行っています。

ただし、計画した日程より前に陣痛が始まった場合や、破水が起きた場合は無痛分娩ができず、通常の出産となる可能性がありますので、あらかじめご了承ください。



無痛分娩を希望された方の分娩の流れ

- 1 外来主治医と相談して入院日を決めます。
通常は予定日より少し早め(おおむね 38 週 ～ 39 週頃)の火曜日です。
- 2 入院前に産科医師より硬膜外麻酔についての説明を受けて頂きます。
受診の予約は産婦人科で行います。
- 3 入院翌日(水曜日)、麻酔がいつでも開始できるように硬膜外カテーテルを留置します。カテーテルの留置は産科医師が行います。カテーテル留置後からは、分娩が終了し翌日までシャワー浴をすることができません。
- 4 カテーテル留置後、陣痛誘発を行います。
- 5 陣痛が強くなった時点でカテーテルより麻酔薬を注入し、硬膜外麻酔を開始します。硬膜外麻酔開始時からは水やお茶、ゼリーなどの流動性のあるものの摂取は可としますが固形物は不可とし、点滴を開始します。
また、麻酔中はベッド上安静となりトイレに行くことができないため、尿道カテーテルを留置します。
- 6 分娩後、処置が終了した時点で硬膜外カテーテルを抜去します。

費用と申込みについて

- 無痛分娩を行う場合、通常の入院・分娩費用とは別途に 13 万円～の追加費用をお支払いいただきます。
- 無痛分娩をご希望の場合、妊娠 36 週目までにお申込みください。

メリット

無痛分娩により陣痛の痛みが軽減されることで、分娩時の身体的負担が少なくなることが期待されます。これにより、分娩中の体力の消耗を抑え、安定した状態で出産に臨むことが可能となる場合があります。

リスク

無痛分娩に伴う主なリスクとして、分娩に時間がかかる場合（分娩遷延）や吸引分娩の可能性が高くなることが報告されています。また、麻酔の影響により血圧が低下し、赤ちゃんの状態に影響を及ぼす可能性があるため、慎重な管理が必要です。

その他の副作用として、硬膜外カテーテル挿入時に頭痛が生じることがあり、通常は安静により軽快しますが、持続する場合には適切な対処法があります。カテーテルの位置や詰まりにより麻酔効果が得られにくい場合もあります。

まれに発熱、排尿障害、神経障害、誘発剤使用に伴うリスクなどが生じることがあります。

これらのリスクについては、事前に十分な説明を行い、患者様の理解を得たうえで実施しております。



医療法人医誠会

医誠会国際総合病院 産科

予約・お問い合わせ

tel **0570-099166**
mail : sanka@iseikaihp.or.jp

病院 HP



産科 HP

